

第 53 回鹿児島県母と女性教職員の会 開催

2013 年 11 月 17 日(日)鹿児島市立長田中学校において、「子どもたちに平和な未来を ～ 母女の歩みを明日へ ～」をテーマに第 53 回鹿児島県母と女性教職員の会を開催しました。

開会にあたり、県母女実行委員長の川口晃子さん(母親)が、開会のあいさつをしました。

実行委員長あいさつ

「よく知ることや違う立場・視点で観ることの大切さを、母女に参加し体験することで感じました。全国の母女が 60 年続いているのは、その時その時に、想いをもった方々が、自分たちの身近なこととして考え続けてきたからこそだと思います。私たちは子どもを通じて、交流ができています。考え方、価値観が違っていても、それは当たり前のことで、『違いがある』ということを受け入れて、最終的な目的・向かう方向は同じだと確信しながら、ここにいる私たちお互いの存在が、それぞれの行動を起こすためのエネルギーとなれるように、今日の帰りの車の中で『あれ、なんか私わくわくしている』と思えるような出会いや、学びを得られる、実りのある会となるように、この会を私たちで創っていきましょう」



続いて母親実行委員等が、構成詩で「つながりましょう。かけがえのない子どもたちのいのちと笑顔を守るために、もっと確かに。わが子・教え子を再び戦場に送らないために、子どもたちに平和な未来を」と訴えました。

午前中は講師に辛 淑玉さんを迎え、「今、起きていること～子ども・女性の未来を拓く～」と題して講演を行いました。辛さんは、各地で行われているヘイトスピーチの映像をもとに、その背景は「～のくせに」という差別意識であることや居場所がなく孤立感を募らせている世代がそこにかかわっていること、安倍政権下の日本の危機的な状況など、パワフルにわかりやすく話してくださいました。現在、辛さんはヘイトスピーチとレイシズムを乗り越える「のりこえねっ」とを立ち上げ、ヘイトスピーチが傷つけるのは、在日韓国・朝鮮人、社会的少数派だけでもないと、ヘイトスピーチと対峙する運動を続けています。最後に「一緒に未来を創っていきませんか」と力強く私たちに呼びかけ講演を閉じました。



また、午後は6つの分科会にわかれて各支部からの問題提起をもとに議論を深めました。

1954 年『平和はただ黙っていても守れない』ことを知った母親と女性教職員たちが「全国のお母さん手をつないで立ち上がりましょう」と呼びかけたアピールから始まった母と女性教職員の会は、60 年にわたり母と女性教職員が手を結び「平和・憲法・教育を守る」運動を連綿と続けてきました。

鹿児島県では 1959 年に第 1 回を開催してから、今回 53 回目を迎えました。第 53 回県母女の全体の参加は 257 人(うち母親 12 人、男性 10 人、一般 56 人)でした。地域や社会を動かす母女の運動には、大きな意味があります。母女の運動に誇りと自信を持ち、「わが子、教え子を再び戦場に送るな」のゆるぎない視点と行動力でこれからも歩み続けていきます。

